資料 23-2-11

2023/12/21

第Ⅷ分野連携の活動状況報告

1．第Ⅷ分野連携の背景（2021/12/21 委員会の資料 21-2-11 より）

- 土木学会の中長期計画である「JSCE2015」の重点課題の一つとして「学会内活動の有機的結合とその評価」が設定された。
- この課題の中で「研究分野が専門細分化され総合工学としての土木工学が見えにくくなってきている」ことから「研究委員会の統合化や**分野横断的活動の積極的な推進**」に取り組むことになった。
- 土木学会の調査研究部門に新たに「分野横断型」の分野として第Ⅷ分野を設立し、地震工学委員会、地下空間研究委員会、地球環境委員会、原子力土木委員会が新分野にそのまま移動することになった。

2．第Ⅷ分野連携の現状

- まずはお互いの委員会が何に取り組んでいるかを知るため、**2022/3/1 に第Ⅷ分野キックオフシンポジウムを開催**。
  - ➢ シンポジウムではどのように分野横断を実現するために横串を入れるか、地震工学と地球環境は外的要因としてまとめ、地下空間と原子力土木は対象となる施設としてまとめるか等、議論のスタートについて意見が交わされた。
- シンポジウム開催以降は目立った連携活動ができていない。
- 2023/9/4 に第Ⅷ分野連絡会を開催。
  - ➢ 地震工学委員会より今後の取り組みに関して提案。（3．参照）
  - ➢ 各委員会から課題を抽出して、連絡会で共有することで専門の研究者につなげることができ、知識の提供や共同研究に発展できる。各委員会内でも第Ⅷ分野を意識した議論をして頂きたい。

3．地震工学委員会の提案

- 2022 年のキックオフシンポジウムのような、VIII 分野の委員会の活動アピールのための行事（合同講演会・合同シンポジウムなど）を定期的に開催する
  - － 開催頻度：年 1 回程度
  - － 担当：持ち回り
  - － 開催内容：テーマは連絡会で議論、すべての委員会が関連しなくても良い

4．原子力土木委員会としての第Ⅷ分野の活用方針

- ３．の地震工学委員会の提案に関し、どの程度の頻度でシンポジウムのような行事を開催するかよりも、**第Ⅷ分野として何を目的に活動していくかが重要**。（シンポジウムはあくまでも手段）
- まずは第Ⅷ分野連絡会で原子力土木委員会としての考えを共有していくとともに、第Ⅷ分野として活動の目的を明確化するところを取り組む。
- 目的を明確化した上で、各委員会任せにするのではなく、第Ⅷ分野連絡会として主体的に連携を進めていく。
- 原子力土木委員会としての考え（案）
  - 共通の課題に対し、小委員会などを立ち上げる際、お互いの委員会から参加者を募り、協働で運営・管理を進めていくのが良いのではないか。
  - お互いの委員会での実施内容の相互理解を深めるため、双方の委員会や小委員会にオブザーバーとして参加するのが良いのではないか。
  - 具体的な共通課題として、防災または設計超過事象における不確実さを有する事象による影響の表し方を軸に、第Ⅷ分野の連携を検討してみてはどうか。（例：一般防災と原子力防災の実情や課題・解決策など）

5．情報共有

- 2024 年の重点研究課題への提案について
  - ➢ 7 月末に中島幹事長より案内済み。
  - ➢ 第Ⅷ分野の活動も意識頂けるとありがたい。

【参考】

① 2023/9/4 の第Ⅷ分野連絡会の議事録（案）

② 2023/9/4 の第Ⅷ分野連絡会の資料「地震工学委員会の提案」

第 VIII 分野連絡会

日時：2023 年 9 月 4 日 10:00～11:30
場所：オンライン（Zoom）
参加者：

【地震工学委員会】	阿部慶太（日本大学）	R5 年度　幹事
【地下空間研究委員会】	武田 誠（中部大学）	R5 年度　幹事長
	池尻 健（(株)セントラル技研）	R5 年度 総括幹事
【地球環境委員会】	中嶌一憲（兵庫県立大学）	第 17 期幹事長（2023.4-2025.3）
【原子力土木委員会】	冨尾祥一（構造計画研究所）	R5-R6 年度　幹事

１．メンバー紹介が行われた。
２．前回議事録の確認
　　〇経緯説明、今年度のメンバーが確認された。
　　〇委員会連携・協働に関する意見交換・ディスカッション
　　(1) 連携に関する話題、これまでの議論内容等が紹介された。
　　(2) 各委員会の活動内容の報告と、それに基づく議論を行った。
　フリーディスカッション(メモ)：
　　〇原子力発電所の処理水の問題は、海洋環境、経済政策と強い関連がある。(武田)
　　➔原子力土木委員会としては、議論していない課題である。委員会内でどのような研究がされているか？をヒアリングする。(冨尾)
　　➔各委員会や委員会外の得意とする研究者につなげることは可能である。(中嶌)
　　➔処理水の問題は地震工学委員会内でも関心が高い。(阿部)
　　⇒各委員会から課題を抽出して、連絡会に出していただければ、専門の研究者につなげることができ、知識の提供や共同研究に発展できると思う。各委員会内でも第 VIII 分野を意識した議論をお願いします。
　　〇各委員会とも委員会の進め方において「分野横断」を意識しており、８分野の設立趣旨にマッチしている。
３．土木学会 2023 年度 第 1 回研究企画委員会の議事資料等が紹介された。
　　➔特に重点研究課題に対する取り組みを各小委員会でも議論ください。
４．前回会議の提案について、議論を行った。
　a)合同講演会・合同シンポジウム、あるいは 2022 年のキックオフミーティングのような VIII 分野の委員会の活動アピールのための行事等を定期的に開催する
　b)委員、小委員会委員等の公募の際に、特に VIII 分野の他の委員会の委員・関係者を意識した、情報周知や活動の実施。
５．地震工学委員会からのご提案
　4a)に関して、シンポジウムは、開催頻度：年１回程度、担当：持ち回りとする。開催内容：テーマは連絡会で議論するが、テーマによっては、必ずしも全ての委員会が強く関連しなくても良い。なお、できれば、地震工学会が１２月に開催を予定している第４回研究会（オンラインと土木学会会議室とのハイブリット開催を予定）に合わせて１２月に開催したい。
　→各委員会での意見集約、準備等を考慮すると１２月開催は厳しいのでは？次回の連絡会での議論を経て、今年度中の開催を目標にしては？（方針として、概ね了承された）

4b)に関して、意義が不明瞭な部分があるが、概ね賛成。

→分野横断の意識の方に連絡することを意図した発言。広報活動の一環であり、各委員会に任せる。

宿題：

・地盤工学委員会から提案があったシンポジウムに対して、開催頻度、担当、開催内容を各委員会で検討ください。次回、各委員会の案を提出いただき議論したい。

・それぞれの委員会で、重点研究課題（第８分野の活動を視野に）をご検討ください。

→地震工学委員会では、重点研究課題への提案について委員に呼び掛けている。第８分野としての活動を意識してもらうようお願いしている。関連する研究者には連絡済み。

６．その他

次回の予定　　４月、９月と実施した。次は、１２月？

連絡会の幹事を【地震工学委員会】→【地下空間研究員会】→【地球環境委員会】→【原子力土木委員会】→の準で回しています。次回は【地球環境委員会】が担当になります。

次回の連絡会は、中嶌先生（地球環境委員会）が担当される。

2023/9/4　地震工学研究会の提案（1/2）

VIII分野拡大連絡会(4/7)での検討依頼事項

- 背景
  - VIII分野を構成する個々の委員会で、他の学術分野や他学会の構成員等を取り込んだ横断的な活動を展開している
  - その上でVIII分野という枠組みには、委員会の活動に加わることに興味のある新たな研究者の発掘、勧誘のPR、などの効果を期待している
- 検討要望事項

  (1) 2022年のキックオフミーティングのような、VIII分野の委員会の活動アピールのための行事（合同講演会・合同シンポジウムなど）を定期的に開催する（例：年１回など）

  (2) 研究小委員会の公募の際に、特にVIII分野の他委員会の委員・関係者を意識した募集情報周知。委員会（本体）への参加の呼び掛け

1

2023/9/4　地震工学研究会の提案（2/2）

2023/05/30運営幹事会での質疑応答

- (1)について、各分野の紹介という場でも良いのか。

  ⇒各委員会をPRする場という意味で良いと思われる。
- (1)について、2022年は第4回研究会で実施したが、各委員会が例えば1年毎等、持ち回りで実施するのはどうか。

  ⇒その形も良いと考える。拡大連絡会で提案してみる。
- (2)について、実施の意義が不明確な感じがする。

  ⇒他委員会との分野横断で実施する内容を見つけていくという点で良い試みと考えている。

2